

工房「エコロイコロ」初の作品展開催

町内石山のアイヌ刺しゅう工房「エコロイコロ」による初の作品展が3月8～18日、苫小牧信用金庫白老支店ロビーで開催されました。アイヌ文様の刺しゅうが施された小物やアクセサリーなど約50点が紹介され、利用客らの目を引いていました。

同工房代表の大久保由里子さんは、町内のアイヌ文様刺しゅうの指導者に学び、2019年に同工房を開きました。

会場にはメガネケースやコースター、ブックカバー、ポシエット、ミニ着物など、かすりとアイヌ文様刺しゅう、着物の帯を再利用し多文化を取り入れた個性的な作品が並びました。大久保さんは「アイヌ文化や工房の作品に少しでも親しんでもらえれば」と話していました。連絡は☎090-7657-4334へ。



知っておこう アイヌ文化

ペネイモ

イランカラブテ。チキサニでは4月16日(土)、イオルミニ体験「ペネイモ作り」を開催いたします。

ペネイモ（またはペネゴシヨイモ）は、冬の間、雪の中で凍ったジャガイモが、春を迎えて、夜と日中の寒暖差で発酵、熟成し、柔らかくしぼんで、特有の匂いを発するようになります。そのジャガイモの皮をむいて、数日、水であく抜きし、水分を搾り取った後、ニス（白）とイウタニ（杵）で粘りが出て滑らかになるまでつきます。そして、平たい団子状にして焼くと完成です。焼く前によく乾燥させて保存し、食べる時は再び水で戻して焼いたり、粥に入れて食べます。

今から200年程前、アイヌ民族はジャガイモ（現在主流の品種とは異なる）を栽培していたとされ、小さかったり、傷んだりしたジャガイモであっても、廃棄せず、手をかけてペネイモにすることで、保存食として生かすことができるのです。

飢饉という経験がなくなった現代だからこそ、ペネイモ作りを通して、アイヌ民族の保存食について学んでみませんか？皆さまの体験へのご参加をお待ちしております。詳細は本紙の「暮らし百科 催し イオル体験交流事業」をご覧ください。



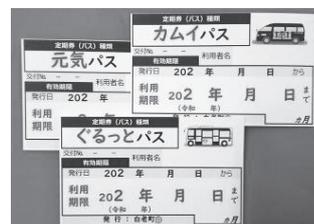
「ペネイモ作り」体験の様子

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301

町地域公共交通（「元気号」「カムイ号」「ぐるぽん」）定期乗車券の販売 4月から各地区郵便局に変更

4月1日から町地域公共交通定期乗車券の販売を、白老を除く社台郵便局・萩野郵便局・竹浦郵便局・虎杖浜郵便局で開始します。これに伴い各地区の出張所での販売は取りやめます。また、簡易郵便局では扱いません。



問い合わせ先：政策推進課 地域戦略推進グループ ☎82-8213